

実施計画事業調書

平成19年度

委員会名 いきいき委員会

(単位：円)

所属 生涯学習部 生涯学習課

事業名 **生涯学習推進事業**

款	09	教育費
項	05	社会教育費

事業費総額		2,736,000
特定財源	国補助	
	府補助	
	その他	
一般財源		2,736,000
事業費内訳		事務事業委託料 2,467,500
		手数料 268,500

事業の概要	生涯学習・文化・スポーツに係る市民の学習ニーズの調査および振興計画の策定を市民協働で行う。		
事業の目的	第1次生涯学習基本計画・基本構想（生涯学習プラン）が平成9年3月の策定以後10年が経過したため、文化振興・スポーツ振興の視点を合わせ、市民の学習ニーズを調査するとともに、まちづくりの視点を含めた新しい生涯学習・文化・スポーツの振興のための方向性を明らかにすることを目的とする。		
事業のスケジュール	H19年7月 生涯学習プラン策定委員会（計5回開催） 8月 生涯学習推進本部（計2回開催） 8月 生涯学習検討会（計2回開催） 9月 市民意識調査、活動団体調査実施 11月 市民ワークショップ開催	人権行政 推進の視点	お互いの人権を尊重できる社会を実現するために、市民の生涯学習活動を有効に機能させる仕組みづくりをめざす。

事業の評価	指標	成果指標	生涯学習活動を行っている人の割合（市民アンケートによる）			
	目標値	平成29年度までに	実績値	平成19年度	平成18年度	平成17年度
	指標を	70%以上		61%		
人件費	18,000,000円（正職員 2人）		（非常勤職員等 0人）			

事業の成果	公募市民による策定委員会の開催を中心に、市民アンケート、団体アンケート、市民ワークショップを行い、市民ニーズに即した振興計画を策定することができた。	人権行政 推進の成果	今後の生涯学習の振興等において、人権の視点を踏まえた振興計画を位置づけることができた。
-------	--	---------------	---

今後の方向性 継続 廃止検討 ○完了

説明 振興計画の策定業務は終了。ただし、平成19年度より10年間の振興計画としたため、5年後、10年後の定点観測は不可欠である。

実施計画事業調書

平成19年度

委員会名 いきいき委員会
(単位：円)

所属 生涯学習部 生涯学習課

事業名 **市民文化振興事業（生涯学習）**

款 09 教育費
項 05 社会教育費

事業費総額 3,302,000

特定財源	国補助	
	府補助	
	その他	
一般財源	3,302,000	

事業費内訳 事務業務委託料 3,302,000

事業の概要	市民が活動した成果を発表する場として市民文化祭を実施している。 舞台の部・・・謡曲、演奏、舞踊、ダンス、マジックなどの発表 展示の部・・・いけ花、書、絵画、俳句、手工芸、写真、木彫り、盆栽、アートフラワー、人権フォト展、こども会フェスティバル、国際平和ポスター展 他		
事業の目的	活動成果を発表する機会があることで、向上心ややりがいを感じてもらい、文化活動発展・醸成をめざす。		
事業のスケジュール	第52回大東市民文化祭 開催日 平成19年11月1日(木)～4日(日) 会場 大東市立総合文化センター	人権行政 推進の視点	生涯学習活動の活性化により、豊かな心を育て、平和なまちづくりをめざす。

事業の評価	指標	成果指標	入場者数			
	目標値	平成22年度までに	実績値	平成19年度	平成18年度	平成17年度
	指標を	46,000人にする。		40,105人	44,087人	37,902人
人件費	90,000円 (正職員 0.01人)		(非常勤職員等 0人)			

事業の成果	【舞台の部】 出演者数 2,227名 観客数 15,934名 【展示の部】 作品参加者数 3,034名 観客数 18,910名	人権行政 推進の成果	事業を通して、生涯学習活動の活性化の効果が得られた。
-------	--	---------------	----------------------------

今後の方向性 ○継続 廃止検討 完了

説明 年々参加希望者が増え、活発な文化祭が展開できているため、今後も継続する必要がある。より充実した文化祭をめざしていく。

実施計画事業調書

平成19年度

委員会名 いきいき委員会
(単位：円)

所属 生涯学習部 生涯学習課

事業名 **体験活動推進事業**

款	09	教育費
項	05	社会教育費

事業費総額	288,200
特定財源	国補助
	府補助
	その他
一般財源	288,200

事業費内訳	報償金	200,000
	印刷製本費	88,200

事業の概要	社会教育法の一部改正により、自然体験活動等の体験活動の機会を提供する事業実施及び奨励の事務が教育委員会事務とされたこと、また完全学校週5日制実施の受け皿として自然体験学習事業を推進する。		
事業の目的	事業を通して、青少年の健全育成を図る。		
事業のスケジュール	アウトドアスクール 10回	人権行政 推進の視点	自然体験活動等、多様な機会を活用しながら青少年が学び、育つことは、豊かな人間性をもった人権意識の高い人材の育成につながる。

事業の評価	指標	成果指標	1回あたりの平均参加者数（人）			
	目標値	平成22年度までに 指標を 35人 にする。	実績値	平成19年度 33人	平成18年度 33.2人	平成17年度 28.9人
	人件費	450,000円（正職員 0.05人）（非常勤職員等 0人）				

事業の成果	自然活動を中心とした学習プログラムで、子どもたちのゆとりを生かして健全育成を図れた。	人権行政 推進の成果	事業を通じて、多くの青少年の豊かな人間性の醸成に寄与できた。
-------	--	---------------	--------------------------------

今後の方向性 ○継続 廃止検討 完了

説明 今後さらなる充実した内容を考慮していく。
平成20年度から指定管理者へ運営移行。

実施計画事業調書

平成19年度

委員会名 いきいき委員会
(単位：円)

所属 生涯学習部 生涯学習課

事業名 **学校体育施設開放事業**

款 09 教育費
項 05 社会教育費

事業費総額 479,426

特定財源	国補助	
	府補助	
	その他	
一般財源	479,426	

事業費内訳

報償金	280,000	
医薬材料費	199,426	

事業の概要	各小学区ごとに組織された学校体育施設開放運営委員会で施設利用に係る日程を調整し、学校教育に支障のない範囲で年間を通じて学校施設の有効な活用を推進する。		
事業の目的	子どもたちの健全育成を目的とし、学校体育施設（校庭・プール）を開放し、安全な遊び場の提供と青少年の団体活動の促進を図る。		
事業のスケジュール	各校区に学校施設開放運営委員会を立ち上げ運営委員会と学校長の間で協定書を作成年間を通じた施設開放の許可を大東市教育委員会に申請申請を受理された後、定例会において調整	人権行政推進の視点	青少年を健全に育成することは、豊かな人間性をもった人権意識の高い人材の育成につながる。

事業の評価	指標	活動指標	利用者数			
	目標値		実績値	平成19年度	平成18年度	平成17年度
	人件費	900,000 円	(正職員 0.1 人)	38,335人	38,451人	38,556人
				(非常勤職員等		人)

事業の成果	学校施設が無駄を廃した形で子ども達の健全育成に供されるといふ大きなメリットを生じている。	人権行政推進の成果	事業を通して、青少年の健全育成を推進できた。
-------	--	-----------	------------------------

今後の方向性 ○継続 廃止検討 完了

説明 子どもの健全育成を願って活動する多くの団体が競合することなく有効に施設利用が可能となるシステムであり、今後ともこの体制で臨むことが望ましい。

実施計画事業調書

平成19年度

委員会名 いきいき委員会
(単位：円)

所属 生涯学習部 生涯学習課

事業名 **生涯学習ルーム「まなび泉」運営事業**

款 09 教育費
項 05 社会教育費

事業費総額	2,342,525	
特定財源	国補助	
	府補助	
	その他	126,600
一般財源		2,215,925
事業費内訳	消耗品費 12,650 通信運搬費 36,103 事務業務委託料 2,293,772	

事業の概要	義務教育施設の余裕教室を活用した施設計画に基づく整備事業であり、市民サークルの生涯学習活動の場等、多様な生涯学習を支援する施設として運営する。利用のない時間帯を利用して一般向けの各種講座を実施している。		
事業の目的	生涯学習ルームとして、市民の多様な生涯学習活動を支援すること。		
事業のスケジュール	(1) 団体、グループの利用 ① 登録数 36団体 ② 延べ利用団体・グループ数 210団体 ③ 延べ利用者数 2,738人 (2) まなび講座開催状況 7講座	人権行政 推進の視点	市民の生活の場で、生涯学習を通じてお互いを尊重し、支えあうことのできるコミュニティを生み出せるように人権施策を進める。

事業の評価	指標	成果指標	施設利用率			
	目標値	平成 22 年度までに 指標を 100% にする。	実績値	平成19年度	平成18年度	平成17年度
				60%	74%	87.9%
	人件費	900,000 円 (正職員 0.1 人) (非常勤職員等 人)				
事業の成果	施設使用の有料化により利用率の減少が見られたが、生涯学習施設としては機能を果たしている。		人権行政 推進の成果	自立した市民の育成により、人権尊重の意識に根ざした協働する地域コミュニティ作りを果たしている。		
今後の方向性	○継続 廃止検討 完了					
説明	7月からの学校校舎の耐震工事により、施設の設備が十分に使えないこともあり利用率が下がったが、市民の生涯学習活動をより良く支援するため今後も継続していく必要がある。市主催の講座については、さらなる充実した内容の講座を検討していきたい。					

実施計画事業調書

平成19年度

委員会名 いきいき委員会
(単位：円)

所属 生涯学習部 生涯学習課

事業名 **生涯学習ルーム「まなび北新」運営事業**

款 09 教育費
項 05 社会教育費

事業費総額		4,655,119
特定財源	国補助	
	府補助	
	その他	793,800
一般財源		3,861,319
事業費内訳	消耗品費	62,718
	光熱水費	761,762
	施設修繕料	184,800
	通信運搬費	51,329
	手数料	15,840
	事務業務委託料	3,048,000
	施設管理委託料	530,670

事業の概要	市民サークルの生涯学習活動の場等、多様な生涯学習を支援する施設として運営する。利用のない時間帯を利用して市民向けの各種講座を実施している。		
事業の目的	生涯学習ルームとして、市民の多様な生涯学習活動を支援すること。		
事業のスケジュール	(1) 団体、グループの利用 ① 登録数 179団体 ② 延べ利用団体・グループ数 1,852団体 ③ 延べ利用者数 13,338人 (2) まなび講座開催状況 6講座	人権行政 推進の視点	市民の生活の場で、生涯学習を通じてお互いを尊重し、支えあうことのできるコミュニティを生み出せるように人権施策を進める。

事業の評価	指標	施設利用率					
	成果指標	平成 22 年度までに		実績値	平成19年度	平成18年度	平成17年度
	目標値	指標を 100% にする。			97.4%	89%	98.1%
	人件費	900,000 円 (正職員 0,1 人) (非常勤職員等 人)					
事業の成果	19年度に施設の利用率が上がり、より一層生涯学習機能が果たせている。			人権行政 推進の成果	自立した市民の育成により、人権尊重の意識に根ざした協働する地域コミュニティ作りを果たせている。		
今後の方向性	○継続 廃止検討 完了						
説明	市民の生涯学習活動をより良く支援するため、今後も継続していく必要がある。市主催の講座については、さらに充実した内容の講座を検討していく。						

実施計画事業調書

平成19年度

委員会名 いきいき委員会
(単位：円)

所属 生涯学習部 生涯学習課

事業名 **各種講座事業**

款 09 教育費
項 06 総合文化センター費

事業費総額	85,000
特定財源	国補助
	府補助
	その他
一般財源	85,000
事業費内訳	報償金 85,000

事業の概要	子ども、親子、成人の各々を対象にしたおはなし会、おはなしフェスティバル、講演会、講座を開催する。		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業への参加を通じて図書館に対する親近感をもってもらう。 ・講座、講演会の実施で図書以外の学習情報を提供する事により、生涯学習の拠点としての役割を担う。 		
事業のスケジュール	<p>①子ども読書の日・お楽しみフェスティバル：子ども読書の日(4月23日)にちなんで本に親しみ、絵本や物語の世界の楽しさを知ってもらう。(講演：語り部の会「こんぺいとう」)</p> <p>②一年生親子読書会：一年生の親を対象に、読書を通して親子のふれあいを深め、豊かな読書習慣を育てていくことを目的に6月から3月の月1回開催。</p> <p>③夏休みおはなしフェスティバル：大型絵本、紙芝居などのおはなし、ペープサートや手遊び等。8月末実施。</p> <p>④楽しい古典文学入門講座：古典文学の魅力を知ると共に生涯学ぶことの楽しさを知ってもらう。10月～1</p>	人権行政 推進の視点	生涯学習活動の活性化により、豊かな心を育て、平和なまちづくりをめざす。

事業の評価	指標	成果指標	参加者数 (一年生親子読書会・古典文学入門講座・講演会)			
	目標値	平成22年度までに 指標を 200人 (下記②④⑤合計) にする。	実績値	平成19年度	平成18年度	平成17年度
	人件費	2,250,000円 (正職員 0.25人)		178人	169人	175人
事業の成果	参加者数 ①子ども読書の日・お楽しみフェスティバル 100人 ②一年生親子読書会 50人 ③夏休みお話フェスティバル 200人 ④古典文学入門講座 97人 ⑤講演会「これからの図書館と市民」 31人			人権行政 推進の成果	事業を通して、図書に親しむ機会が増え、生涯学習活動の活性化の効果を得られた。	
今後の方向性	<input checked="" type="radio"/> 継続 廃止検討 完了					
説明	成人、親子が各種のイベントに参加して、図書館のことを知り、親近感を持ってもらうのに効果があり、さらに関係する図書の貸し出しを促進する。 20年度から指定管理者が継続。					

実施計画事業調書

平成19年度

委員会名 いきいき委員会

(単位：円)

所属 生涯学習部 生涯学習課

事業名 **ブックスタート事業**

款	09	教育費
項	06	総合文化センター費

事業費総額	152,405	
特定財源	国補助	
	府補助	
	その他	
一般財源	152,405	
事業費内訳	消耗品費	26,080
	庁用器具購入費	77,240
	教材購入費	49,085

事業の概要	4ヵ月検診時に乳児とその保護者に対して、絵本の役割と絵本の紹介、絵本のリストと当該事業の主旨案内のパンフレット配布、図書館の利用案内及び絵本の展示と絵本の読み聞かせを行う。		
事業の目的	乳幼児期における親子のふれあいを促進する		
事業のスケジュール	① 毎月2回、乳児の4ヵ月検診時。 ② 赤ちゃん絵本の充実	人権行政 推進の視点	赤ちゃんの保護者が絵本を通じて一緒に楽しめる機会を充実することにより、赤ちゃんの健やかな育成はもとより保護者の豊かな人間性の醸成や、人権意識の向上につながる。

事業の評価	指標	成果指標	検診受信者率			
	目標値	平成 22 年度までに 指標を 100% にする。	実績値	平成19年度	平成18年度	平成17年度
				92.1%	90.2%	90.8%
	人件費	297,000 円 (正職員 0.033 人)		(非常勤職員等 0 人)		
事業の成果		平成19年度 健診対象者 1,235 平成18年度 健診対象者 1,281 平成17年度 健診対象者 1,208	健診受診者 1,138 健診受診者 1,156 健診受診者 1,098	人権行政 推進の成果	絵本とふれあう機会を紹介することができ、赤ちゃんの健やかな育成や保護者の豊かな人間性の醸成に寄与することができた。	
今後の方向性	<input checked="" type="radio"/> 継続 廃止検討 完了					
説明	赤ちゃんの「ことば」と「心」を育むためには、赤ちゃんに語りかけ、楽しい時間を親子で共有することが大切であり、その中で赤ちゃんは愛されていることを感じ、人を信頼し豊かな感性を持った子に育つ。赤ちゃんの保護者が一緒に楽しめる機会を絵本を通じて提供するブックスタートは今後も継続していく必要がある。 20年度から指定管理者が継続。					

実施計画事業調書

平成19年度

委員会名 いきいき委員会

(単位：円)

所属 生涯学習部 生涯学習課

事業名 **公民館セミナー事業**

款	09	教育費
項	06	総合文化センター費

事業費総額		1,361,000
特定財源	国補助	
	府補助	445,000
	その他	
一般財源		916,000
事業費内訳		
	報償金	1,064,000
	賞賜金	12,000
	普通旅費	14,000
	消耗品費	149,000
	使用料及び賃借料	60,000
	印刷製本費	10,000
	通信運搬費	52,000

事業の概要	社会教育法第20条及び21条に基づき、講座、教室、講演、公演会等の事業を実施する。		
事業の目的	多様化する市民の学習ニーズや今日の課題を取り入れた事業を展開することにより、市民の自立的・自主的な活動を促進し、地域コミュニティや地域文化の醸成活動を推進する。		
事業のスケジュール	講座等 27事業 (51日) 子ども向け事業講座等 5事業 コンサート、映画会 4事業 参加者 1,504人	人権行政 推進の視点	女性問題や子育て等について考えたり、太鼓等の演奏を通して人権文化に触れる機会をつくる。

事業の評価	指標	成果指標	アンケートによる満足度			
	目標値	平成 22 年度までに 指標を 80% にする。	実績値	平成19年度	平成18年度	平成17年度
				78.0%	76.7%	65.9%
	人件費	12,690,000 円 (正職員 1.41 人) (非常勤職員等 0 人)				
事業の成果	アンケートでの満足度は70%を超えており、講座、教室等への参加を通じて、他の事業にも参加されたり、参加者でグループをつくり新たにサークルが結成されたりしてきている。			人権行政 推進の成果	おやこクッキング等で、親子の信頼関係がより充実した。太鼓等の演奏で、部落問題等に触れる機会が持つ感性に訴えるものを感じることができた。	
今後の方向性	○継続 廃止検討 完了					
説明	20年度より指定管理者導入することによって、多様化・高度化する学習ニーズに対応する学習機会の提供をさらに充実し、住民およびサークルの参加を得て事業展開をはかる。生涯学習活動をより推進し、地域の活性化につなげていく。					

実施計画事業調書

平成19年度

委員会名 いきいき委員会
(単位：円)

所属 生涯学習部 生涯学習課

事業名 **公民館まつり事業**

款 09 教育費
項 06 総合文化センター費

事業費総額	450,000	
特定財源	国補助	
	府補助	223,000
	その他	
一般財源	227,000	
事業費内訳	手数料	126,000
	事務業務委託料	100,000
	使用料および賃借料	224,000

事業の概要	5月の第2土曜日及び日曜日に総合文化センターとその周辺で、公民館ふれあいまつりのイベント（作品展示、舞台発表、模擬店等）を実施する。		
事業の目的	公民館で活動するサークル活動の振興と団体相互の連帯指揮の向上を図るとともに、地域住民とのふれあいと交流の場とする。		
事業のスケジュール	「公民館ふれあいまつり実行委員会」を立ち上げ、5月12日（土）、13日（日）の2日間に公民館ふれあいまつりを実施。	人権行政 推進の視点	趣味や特技を生かしつつ、ふれあいまつりを通して、生きがいや相手を思いやる機会を充実させる。自己肯定感を充実させ、サークル同士の交流も深める。

事業の評価	指標	成果指標	参加サークル			
	目標値	平成 22 年度までに 指標を 58団体 にする。	実績値	平成19年度 55団体	平成18年度 43団体	平成17年度 44団体
	人件費	3,150,000 円 （正職員 0.35 人 （非常勤職員等 0 人）				
事業の成果		公民館で活動する団体の日頃の活動の成果を発表する場であり、準備及び当日の運営に団体が協力して取り組み、団体相互の理解と交流に果たした役割は大きく、また、多くの住民の参加もあり、地域住民とのふれあいと交流の場ともなっている。	人権行政 推進の成果	サークル活動の充実につながる公民館まつりが実施できた。また、多くの地域住民の参加で、交流促進できた。		
今後の方向性	○継続 廃止検討 完了					
説明	20年度より指定管理者導入。そのことで、参加サークルをさらに増やす工夫に取り組み、地域住民にもまつりの周知を図り、公民館に興味を持ってもらう。また、サークル活動の振興と公民館事業への参加者が増えるように取り組んでいく。					

実施計画事業調書

平成19年度

委員会名 いきいき委員会
(単位：円)

所属 生涯学習部 生涯学習課

事業名 文化財歴史講座等事業

款	09	教育費
項	06	総合文化センター費

事業費総額		141,400
特定財源	国補助	
	府補助	
	その他	
一般財源		141,400
事業費内訳		報償金 140,000 使用料および賃借料 1,400

事業の概要	各種講座の開催 ・ジュニア歴史教室（親子）…小学校4～6年と親を対象 ・古文書教室（一般）…初級者を対象		
事業の目的	郷土の歴史を学ぶことにより、歴史・文化遺産に対する正しい理解と認識を深めていただき、郷土を愛する心を涵養する。		
事業のスケジュール	・ジュニア歴史教室（8月：3回、12月：2回） ・古文書教室・初級編（9月～10月：4回）	人権行政 推進の視点	郷土の歴史や文化を学ぶことによって、地域に対する愛着を深めるとともに、豊かな人間性を育むことができる。

事業の評価	指標	活動指標	内容を充実させた各種講座の回数			
	目標値	平成 22 年度までに 指標を 18回 にする。	実績値	平成19年度 9回	平成18年度 10回	平成17年度 9回
	人件費	450,000 円 （正職員 0.05 人） （非常勤職員等 0 人）				

事業の成果	・受講者が郷土の歴史や文化により関心を抱いた。 ・子どもたちも昔の生活を実際に体験することにより、より郷土の歴史や文化に興味を持つようになった。	人権行政 推進の成果	郷土の歴史や文化に対する関心を高め、豊かな人間性の育成に寄与できた。
-------	---	---------------	------------------------------------

今後の方向性 ○継続 廃止検討 完了

説明 平成20年度より歴史民俗資料館が指定管理者において管理・運営されるが、その中で講座においても民間のノウハウや柔軟な発想を活用して、さらに充実した内容の講座を実施していく。